

視察調査・研修会等報告書

令和 6 年 5 月 29 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様

議員氏名(小川 亘)



研修・視察年月日	令和 6 年 5 月 12 日～14 日
研修会場・視察先	① 岐阜県岐阜市歴史博物館 ② ③ 岐阜県岐阜市役所 ④ 岐阜県多治見市総合福祉センター
研修名・視察目的	① 戦国の歴史を活かす取組について ② 子ども総合センターとエール岐阜について ③ 自動運転バス5年間の試行運転について ④ 子ども達のために戦い続ける NPO
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	① 岐阜市歴史博物館 [redacted] 館長 ② 岐阜市子ども家庭支援センター [redacted] 所長 ③ 岐阜市交通政策課 [redacted] 課長 ④ NPO法人 Mamas Cafe [redacted] 理事長
参加議員(同行者)	
調査概要	① 日本遺産第一号に認定された信長公のおもてなしをたどる岐阜城の歴史と織田信長の人柄やその時代に関係した宣教師ルイス・フロイスの残した言葉を踏まえ、当時の岐阜市の城、街、川文化で信長が目指した来訪者への最高のおもてなしが受け継がれ、現代でも受け継がれ、信長公が「美濃へは何度でも訪れよ」を利用した観光を含めた街づくりを進めていることを調査した。 ② 平成26年に、若者を総合的に支援するエール岐阜を開設した。0歳から20歳までの若者に関するあらゆる悩みや不安に対応するため、ワンストップで総合的に支援するために岐阜市18名・市教育委員会3名・岐阜県警7名・岐阜県5名が連携協定を結び、子どもサポート総合センターを設置して、多様化・複雑化するこどもの課題に対応する取組について調査した。

視察調査・研修会等報告書

	<p>③ 岐阜市における交通政策の次世代への取組として、中心市街地や川原町、岐阜公園などの観光地や市役所等を周遊する自動運転バスを5年間継続して運行し、段階的にインフラ整備をすすめ、社会受容性の向上を図りながら、レベル 4 の自動運転の実装を目指している事業について調査した。</p> <p>さらに、搭乗させていただいた。</p> <p>④ 子育てに困っているママのためにサークルを立上げ、サークルメンバーと子供と一緒に働ける場としてMamas Cafeをオープン2004年NPO認証され現在では年間2万人が利用するまでに成長している。カフェ以外にショッピングモールにてファミサポの運営や子育てサロンも運営している。さらに基金も作り、ファミサポの利用料の一部を支援、リサイクル制服の販売や介助支援の一部支援も行っている。</p>
<p style="text-align: center;">市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>① 岐阜市の道路網は信長の時代からに大きな変化しておらず、昔のままの地図が重なれるほどであり、歴史的な建造物も配置も残り、現代のおもてなしにつながっている。小山市には歴史建造物や文化的な物語がないのが残念であるが、これから小山市へ来訪される方に対しては、小山市的 おもてなしも考える必要がある。</p> <p>② 小山市では子どもの虐待などに関しては、オレンジリボン運動の元となる事件があったために、支援体制は岐阜市の体制とあまり変わらないと感じたが、岐阜県警との連携で警察スタッフも一緒にサポートする体制が出来ている事にはうらやましい限りだと感じた。近い将来のスタンダードになればと考えさせられた。</p> <p>③ 小山市では、お～バスの利用者が増えてきており、路線の拡充も行われており、自動運転バスが小山市にも、有効かと想像したときに、中心市街地の道路にバス専用レーンがない小山市では無理があると思える、しかし各集落を繋ぐ地域交通には向いているかもしれない。岐阜市では、市街地以外でも検討するとの事で、その時にはまた調査してみたい。</p>

視察調査・研修会等報告書

	<p>④ 山本理事長は、子育て支援をする中で政策的な支援も必要だが、これからは、広域化と奥行き(専門性)が必要でスタッフの育成に力をいれており、たえず変化するニーズに応えるのが重要である。小山市でも市単独ではなく、近隣の市や町との連携や子育て支援の専門性をさらに高める必要があると感じた。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

視察調査・研修会等報告書

令和 6 年 5 月 29 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎 佳之 様

議員氏名(小川 亘)



研修・視察年月日	令和 6 年 5 月 20 日～22 日
研修会場・視察先	① 福島県郡山市役所 ② 山形県東根市公益文化施設 まなびあテラス ③ 山形県長井市役所
研修名・視察目的	① 子ども医療費全額回収について ② まなびあテラスについて ③ 旧長井小学校第一校舎の有効活用について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	① 郡山市市民部国民健康保険課 ■■■■■ 課長補佐 ② 東根市 まなびあテラス ■■■■■ 総括責任者 ③ 長井市 ■■■■■ 政策推進参与
参加議員(同行者)	福田幸平・関良平・福田洋一・篠崎佳之・高橋栄・廣瀬武蔵
調査概要	<p>① 国民健康保険における資格喪失後に誤って使用した場合、医療費を利用者が旧保険者の負担した医療費を一旦全額支払う必要があった。</p> <p>国では保険者間調整として直接利用者を介しない仕組みを導入した。郡山市では、子ども医療費無償化は地方単独事業により、医療保険の保険者間調整とは別で、利用者は無償化された現物給付分を旧保険者である国保課へ支払い、子供支援課へ領収書を持参の上清算していた。利用者からの不満も多く、国保課での事務量も大きな負担であった。</p> <p>職員提案により、保健者調整と併せ、委任状の提出により代理行為を可能とした。</p> <p>② PFI 事業で管理運営されている公益文化施設で市民や地域を支える情報拠点としての図書館、市民利用ギャラリーを基本とした芸術活動の拠点としての美術館、活力ある団体活動の情報拠点としての市民活動支援センターからなる複合施設。</p>

視察調査・研修会等報告書

	<p>③ 昭和 8 年に建築された長井小学校の第一校舎 国の登録文化財に指定された校舎を保存改築して、「まなび」と「交流」の施設活用について経緯と現在の状況を調査した。</p>
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>① 国民健康保険から社会保険への切り替え手続き自体でのタイムラグが起きてしまう現状があるが、保険証が国の取組であるマイナンバーカードへ統一されたときにどのようになるか、小山市での事務事業にも注視していきたい。</p> <p>② 小山市では今後小山市文化センターの新築整備が計画されているが、全国様々な文化施設での施設整備・運営も参考にしながら、整備計画を策定していきたい。</p> <p>③ 小山市では昭和初期に建築された校舎は現存していないが、学校の統廃合を含めて、校舎の利活用が行われる可能性があり、総事業費が8億8千万円のうちクラウドファンディングで5千万の他 様々な補助金を活用しての整備であり、小山市でも補助金の活用が重要だと考えさせられた。</p>